



代表質問を行う藤井かつひこ議員

神奈川県議会第 2 回定例会のご報告

みなさんの願い届け 実現に全力

県議会第 2 回定例会は、5 月 15 日から 7 月 6 日の会期で行われました。6 月 19 日、藤井かつひこ議員が代表質問。6 月 22 日、加藤なを子議員が一般質問を行い、県民の願い実現に全力をあげました。

日本共産党



高すぎる国保料(税)の引き下げを

■国庫負担の増額を

来年度から都道府県が国民健康保険の保険者となり、都道府県と市町村が共同で制度を運営することになります。

藤井議員は「国保料のこれ以上の上昇を抑え引き下げることが重要」「国庫負担の増額を国に求めるべき」と質問。知事は「(国の) 公費拡充の確実な実行とさらなる拡充を引き続き国に求めていく」と答えました。

■市町村の独自繰入は引き続き可能に

また、保険料を引き下げするため、「市町村の判断に基づく一般会計からの繰入は、県として解消しろとは言わない適正な繰入と受け止めて良いか」と迫りました。保健福祉局長は、「行かどうかは各市町村の政策判断によるもの」と答弁。

国は市町村の独自繰入の解消を求めています。県は独自の繰入は可能との見解を示しました。

保育園の待機児 解消のための 3つの提案

加藤議員は、今年、県内では 9,341 人の子どもたちが認可保育所に申し込んでも入れないなど、深刻な待機児問題を解決するため、3 つの提案を行いました。

公立保育所増設のための補助制度の創設を

1 地域の子育てに責任をもち、保育の質を保つなど、保育行政の基本になっているのが公立保育所です。保護者は、こうした公立保育所に預けたいと願っています。県が公立保育所建設のための補助金を創設すべきと提案しました。

保育所増設のため県有地の活用を

2 市町村が新しく保育所を増設するうえで、建設用地の確保が必要です。県有地を無償貸与するなど、県として積極的に支援するように提案しました。

保育士の処遇改善のため給与の上乗せを

3 保育所を増やしても保育士が集まらない、また働き続けられないのは、低い賃金と仕事の大変さであり、処遇改善はまったなしの課題です。すでに東京都や千葉県では、独自の給与助成を行っています。神奈川県も給与補助を実施するよう提案しました。

■横断歩道、信号機等の予算増額を

藤井議員は、横断歩道の補修を前倒して集中的に実施するとしながら、交通安全施設整備費全体の予算は減額された問題を追及。更新時期が過ぎた信号機や道路標識の対応が不十分な状況を明らかにして、交通安全施設整備予算の抜本的増額を求めました。

信号機や道路標識の更新予定

施設名	更新時期が過ぎた施設数	更新予定数	更新率 (%)
信号制御機	1,316	264	20.1
信号柱	23,844	600	2.5
大型道路標識	9,761	155	1.6

島根警察本部長の答弁より

■県営住宅の空き家 100%募集を

藤井議員が県営住宅の空き家と入居募集について問うと、知事は「2016 年度は空き家 3,767 戸に対して 1,937 戸募集した」「空き家入居時に必要な修繕工事の予算の範囲で各団地の募集戸数を割り振っている」「少しでも多く募集できるよう取り組んでいく」と述べるにとどまりました。修繕予算が足りなくて空き家を募集にかけられないとは!修繕費は新しく募集した家賃収入でまかなえます。

県営住宅の空き家数と募集戸数

	空き家数	募集戸数	募集率
2015 年度	3,233	1,744	53.9
2016 年度	3,767	1,937	51.4

知事の答弁より

県民の暮らしのための予算増額を

■浸水被害対策・境川改修を急げ

神奈川県と東京都の境界を流れる境川の時間雨量 50 ミリ~60 ミリ対応への改修は、東京都管理区域の護岸整備はほぼ完了しているのに、神奈川県管理区域は「まだまだ」です。そのため、東京都は川底掘削ができず、相模原市は 50 ミリ対応の雨水下水管を整備しても境川への流出を 30 ミリに抑制しています。藤井議員は、人員体制や予算が十分なのかと問い、整備促進を求めました。



リニア新幹線建設にともなう環境破壊が

藤井議員は、県が水源環境税を活用して保全している水源林の一部が、「リニア中央新幹線建設のため」と思われて森林所有者から不動産業者に売却され、これまでの取組が無駄になってしまった実態を告発しました。